

自治体間の連携による中小企業同士のマッチング支援事業を行っていますか?

「九都県市合同商談会」に出展する市内企業を公募し、広域的な取引や新たなビジネスチャンスを創出する機会を提供している。昨年度は、全体で340社が出展し、商談は851回を数え、出展した市内企業5社がマッチングに結び付くなどの成果を挙げている。また、市原市・茂原市・東金市と共同で、4市内に立地する企業間のビジネスマッチングや企業相互の交流の場を提供する「企業間マッチングイベント」を開催している。



海外へ展開・進出する中小企業に対して、どのような支援を講じていますか?

昨年度、経済産業省のシリコンバレー派遣事業を活用し、14の市内事業者に対し、事業成長に向けた計画の改善や意識付けの機会を創出。今年度から、意欲ある市内中小企業の海外進出、製品・サービスの海外展開に関する支援を行っている。また、千葉市産業振興財団では、国際的な認証資格等の取得や、国際的な電子商取引の利用等グローバル展開に関する費用の助成を行うなど、海外での商取引に必要な支援を行っている。

新商品の販路開拓で困難をかかえる中小企業への支援体制を整えていますか?また、本市が地元中小企業の得意分野・技術などを調査・把握し、積極的に販路開拓の支援を講じていますか?

### 三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住  
2002年：NPO法人ハートケアゆ一い（障がい者の施設）設立  
2003年：聖徳大学大学院児童発達研究科修士課程修了  
2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷知事と同期）卒業  
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部委員  
2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、経費老人ホーム「ほんぐくらぶ」の運営に携わる  
2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進／県民会議委員  
2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員  
2011年：千葉市議会議員選挙初当選  
2013年：都市建設委員会副委員長  
2015年：千葉市議会議員選挙2期目当選  
2018年：千葉市議会総務委員会副委員長  
2023年：千葉市議会議員選挙3期目当選  
千葉市議会総務委員会副委員長  
2024年：教育未来委員長

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしくお願いします。

千葉市産業振興財団では、中小企業の優秀な技術や独創的なアイデアを活用した製品・サービスなどの掘り起こし、マーケティングや効果的なプロモーション活動を支援するほか、見本市等への出展及び映像コンテンツ制作への助成など、新規市場開拓のため支援を行っている。

認定された新商品や新サービスは、プロモーション用のカタログや動画を作成するとともに、国内最大級の総合展示会である「産業交流展」に、千葉市トライアル発注認定企業ブースを設置し、事業者自ら認定品をPRする場を設けるなど、販路拡大に向けた支援を行っている。

食品药品では食のブランド「千」や「千葉市つくたべ」があります。何を海外に伝えたいか発信するべきだと思います。千葉市産品の輸出販路開拓のPRとして、海外の百貨店や、飲食店、ホテルなどへ、サンプルを紹介して、商品ニーズの調査などを実施することも必要です。千葉市には海外に友好姉妹都市もありますので、何か輸出できるものはないか、姉妹都市を活用するなど、是非、関係部局連携の上、ご検討をお願いします。最後に、これまで市の産業振興に貢献してきた伝統ある市内中小企業の次世代への承継も重要であり、千葉県事業承継・引継ぎ支援センターと連携の上、円滑な事業承継への支援や、トライアル発注認定事業のさらなる支援販路拡大に向けた支援をお願いします。



**現場主義**

# 三井みわこ 議会報告



## 令和6年度第3回定例会 教育未来委員会 委員長報告



議案第76号・令和6年度千葉市一般会計補正予算（第3号）中所管「体験学習バス借り上げに関する議案」、及び議案第78号・令和6年度千葉市学校給食事業特別会計補正予算（第1号）の2議案について、審査を行いました。

委員より、保育施設等における給食費等補助及び学校給食費の負担軽減に関し、物価高騰が続く中、子供たちの食に関して安定した提供ができるよう、本補正において適切に対応されることを求めるとの意見。また、今年度、給食費に関する物価高騰分に関して市単独の予算で措置したことについて一定の評価はするが、来年度以降は適正な金額に戻していく必要がある中で、国に予算措置を要望する等、過大な保護者負担とならないよう対策を講じられたいとの意見。

続いて、体験学習バス借り上げに関し、貴重な学習機会である体験学習を計画通り実施できるよう、早期発注を行いつばの確保に努められたいとの意見。

逐一採決の結果、いずれも、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。

### 所管事務調査テーマ 「子ども誰でも通園制度」

教育未来委員会として、各委員からの意見を聴取し、年間調査テーマとして「子ども誰でも通園制度」を設定しました。

調査の目的として、今年度から本市において試行される「子ども誰でも通園制度」により、子どもの社会的情緒の発達への好影響のほか、これまで、行政の支援が届きにくかった親子の孤立や虐待の未然防止などにつながることを期待される一方、保育士確保も困難な状況下での、ニーズに応じた受入態勢の確保、保育内容への影響、月10時間という限られた時間の中での子どもの育ちや保護者との関係性への影響など、課題も多く見受けられることから、同制度の本格実施に向けた調査を行うこととした。



試行事業実施認定施設は、24施設（R6.9.1現在）。子ども家庭庁が公表した「中間とりまとめ」においても、多くの課題が挙げられており、本市の保育所・認定こども園等の運営状況に照らしても、様々な課題が想定されます。したがって、事業を円滑に進めるためにも、本施行における検証が極めて重要となる認識されます。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com  
X(旧Twitter)ID : 三井美和香  
発行 : 三井 美和香  
TEL & FAX : 043-216-5432  
〒260-0033 千葉市中央区春日  
1丁目 6-11-106

三井みわこ



で検索！

<http://www.mitsui-miwako.com>



# 令和6年第3回定例会 一般質問

## 介護予防について

本市の介護給付費は、令和5年度決算で約745億円であり、毎年約4%程度増加しています。また、本市の介護認定率は、19%で全政令市の中で18位であり、現在は政令市中でも下位に位置しており、今後は後期高齢者数の増加により認定率が上がる傾向にあり、サービス提供が維持できなくなることが予測されます。

**質問** 本市における介護予防ケアプランの作成件数はいくつですか？また、居宅介護支援事業所への指定拡大に際し、本市はどのように対応しますか？

**答弁** 「介護予防ケアプラン」の令和5年度の件数は、19,241件です。今回の制度改定において、指定居宅介護支援事業者が、あんしんケアセンターの委託を受けずに、介護予防サービスのプランを作成することが可能になりました。会議の場やメールなどで周知した。

**質問** 居宅介護支援事業所に対し、介護予防ケアマネジメントの趣旨を周知しているか？市の職員とあんしんケアセンターでは、介護予防ケアマネジメントの考え方、どのように共有していますか？

**答弁** 趣旨は、「介護予防と自立支援の視点を踏まえ、自らの選択に基づきサービスが包括的かつ効率的に実施されるよう、専門的な視点から必要な援助を行う」ことであり、本市では介護予防ケアマネジメントの手引きを作成し、ホームページ等で周知している。また、あんしんケアセンターに対しては、介護予防ケアマネジメントの趣旨に基づく支援が行われているか確認している。

**質問** チャレンジシニア教室、シニアフィットネス習慣普及事業、シニアリーダー養成講座、介護支援ボランティアの実績は？

**答弁** チャレンジシニア教室は、1コース6回の教室を18コース実施し、251人が参加、シニアフィットネス習慣普及事業の利用者は97人、シニアリーダー養成講座の受講者数は

94人、本年3月末時点で516人がシニアリーダーとして活動しており、シニアリーダーが実施した体操教室に延べ60,899人が参加した。介護支援ボランティアは、140人がボランティア活動を行った。

**質問** 繼続的に介護予防、健康づくりをしてもらうためのポイント付与などのインセンティブについての見解は？

**答弁** ポイント付与などのインセンティブは、市民が継続的に健康づくりに取り組むために有効な手段であると認識して検討していく。

**質問** フレイルについて、あまり高齢者には知らないと思うが、どのように周知していますか？

**答弁** 市政だよりでフレイル予防の特集記事の掲載、フレイル予防についての講話などを実施している。病気ではなく日常生活にも大きな支障がないため、フレイルを自身の問題として認識していない方や、健康に無関心な方への働きかけが課題である。

**質問** 行政がNPOやボランティア、地縁組織等の活動を支援し、これを総合事業と一体的かつ総合的に企画・実施することが望ましいと思いますがどうですか？

**答弁** 高齢者施設などの地域交流スペースの利用に関する情報の周知や、町内自治会やNPO法人が地域の支え合い活動として介護予防体操やサロンなどの場を提供する場合に費用助成を行うなど取組みを引き続き進める。

**要意見** 高齢者・要支援者については、掃除や買物など生活行為の一部のサポートさえあれば、自立して生活を続けられる方が多いと思われます。支援する側とされる側という画一的な関係性ではなく、地域とのつながりを維持しながら、本人が有する能力に応じた柔軟な支援をしていくことが、高齢者の自立意欲の向上につながると期待されます。



## 産業振興について

本市では、持続的な経済の成長と雇用の創出を目指すとして、令和5年3月に作成した「千葉市経済成長・雇用創出ビジョン」の中で、「本市を拠点とした創業の促進と成長支援」及び「価値を創造する新事業創出の支援」の方針が示され、スタートアップの育成支援や産学連携による新事業創出支援、新商品・新サービス開発支援に対する強化が期待できるものとなっています。

また、我が会派の代表質疑でも取り上げました様々な機関との連携についても、

「千葉市スタートアップ・エコシステム」による、参画機関それぞれの持ち味・強みを活かした支援を行っていると承知しています。

都内をはじめ、多くの大都市において、起業家を支援することを目的に公設のインキュベーション施設が設置され、支援が行われています。

本市は、創業者を増やすとともに、創業間もない方々を支援するために、平成25年3月、オープンスペース型起業家支援施設「CHIBA-LABO」が設置され、平成30年には千葉中央ツインビル2号館へ移転しています。

**質問** CHIBA-LABOでは起業家に対し、どのような取り組みをされていますか？

**答弁** チバラボでは、8月末時点で会員84者が活動している。昨年度は、ビジネスプラン相談会を19回、融資・補助金活用相談会を4回、資金調達や情報発信に役立つセミナー等を81回開催したほか、様々な支援機関への仲介を行うなど、創業準備段階の方や創業間もない起業家に対する支援を実施しています。これまで延べ会員数288者のうち、利用開始後の法人設立数80社以上となっている。

**質問** イノベーション拠点の整備のほか企業間の交流を活発化させる取り組みを促進するどあるが、新たな担い手を増やす取り組みとして、創業を志す方や、創業間もない方への支援について、どのような取り組みをしていますか？

**答弁** 千葉市産業振興財団にワンストップ相談窓口を設置、市内支援機関と連携して、受講後に登録免許税の軽減等のメリットが得られる特定創業支援等事業の研修を開催し

ている。また、昨年度は創業支援補助金として、家賃等の固定費を除いた、創業に必要な経費補助を26件行ったほか、「女性のための起業応援セミナー」として、ネットワークづくりを重視した研修を開催するなど、創業の裾野を広げる支援を行っている。

**要意見** 女性のための起業について、女性のニーズに対応したきめ細やかな支援を求めます。

**質問** これまでの受講者同士や他業種交流が対面で行われていますか？

**答弁** 千葉市産業振興財団のほか、千葉商工会議所や信用保証協会と連携し、創業者研修を実施している。また、「千葉市イノベーション交流会」や「ビジネス交流会」等を開催など、創業者間の交流の場の創出に努めている。

**要意見** チバラボ施設のハード面について、密な打合せができる部屋がない、Wi-Fi機能が弱い、モチベーションが下がる、施設の立地が千葉駅の周辺だと更に良いと、市民の方から伺っているので、改善を求めてます。

**質問** 産業支援の面において、大学等が持つ専門性を活用する取組みは行われていますか？

**答弁** 大学等が有する研究シーズを中小企業の技術に活用するため、両者のマッチングを行うビジネスシーズ交流会を毎年開催しているほか、産学連携による研究開発や試作品の製作、その後の技術的課題の解決に向けた改良などへ助成を行うなど、事業化に向けた支援を行っている。

**要意見** 資金援助だけでなく、マーケティングや販売戦略の支援など多角的なサポート、また、産学連携により市内企業の特許認証取得事例を増やすことは、企業の理系人材の確保にもつながるので、研究者の無償派遣も求めます。

